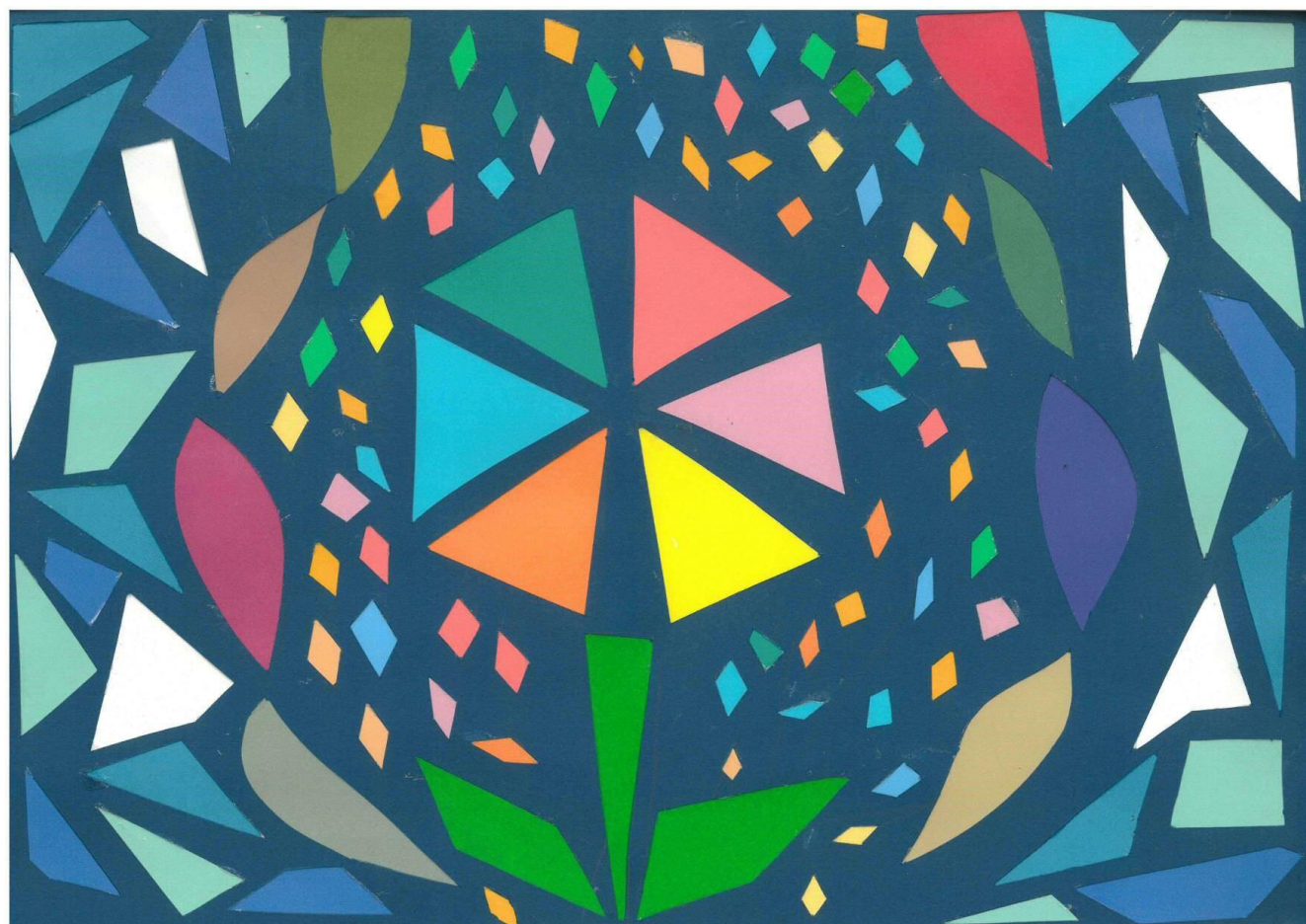


# 共に生き、共に学び合う教育を



デザイン:岩園小学校教員 南谷喜彦

## しんぶん 芦屋人権協

2023 年  
3月1日発行  
第53号

### もくじ

- 1 第67回定期総会 記念講演会
- 2 ハンセン病問題研修
- 3 人権パネル展
- 4 社会教育部会・高校教育部会研修会
- 5-6 研究大会報告
- 7-8 専門部の活動報告
- 9 芦屋市からの発表
- 10 子どもの人権作文紹介
- 11 記念講演会案内他

発行 芦屋市人権教育推進協議会  
連絡先 芦屋市精道町7番6号  
芦屋市教育委員会生涯学習課内 ☎0797-38-2091

# 第67回定期総会・記念講演会(2022年5月18日)

5月18日(水)芦屋市民センターにて2022年度定期総会を開催しました。2021年度事業報告、決算報告、会計監査報告、2022年度活動方針・事業計画案、予算案、すべての議事が承認されました。役員選考委員会より、新年度役員案の紹介があり、長年会長として尽力された清水章子さんが退任、新会長に小畑広士さんが承認されました。

総会後は前田良さんを講師に迎え記念講演会(下記参照)を開催しました。

(辻本久夫)



新会長挨拶  
小畑広士



## 記念講演会

演題：パパは女子高生だった

～自分らしく生きること～

講師：Like myself 代表

前田 良(まえだ りょう)さん

私は、心の体の性の不一致、男性として生きています。幼少期、学校や地域ではさまざまなつらい思いをしてきました。性に関して、言えない環境があります。多くのみなさんにどうしたらいいのか考えてほしいと思つて、さまざまな活動をしています。

私は高学年から体の変化が始まり、気持ちを誰にも伝えられず、死を考えました。みなさんにも願ひです。なにか相談された時の一番初めの言葉に気を付けてほしいです。黙つて、「うんうん」と頷いてください。否定的なことをいふと、それで終わっちゃうんです。「あなたの人生なんだから、あなたの好きなように生きればいいじゃん。」くらいの気持ちをもつてほしいです。

男性として生きるために五つの条件が必要でした。四つはクリアしましたが、一つがクリアできませんでした。それは生殖器がなかったことです。タイで子宮卵巣をとり、日本に戻つて、家庭裁判所に必要書類を出しました。国は、「あなたは男として生きていいですよ。」と認めてくれました。パートナーとすぐに結婚。子どもが欲しくても、私には生殖機能がないため、第三者から精子をもらい、子どもを授かった時も、出生届を兵庫県にもつていくと受理されず、子どもの父親として認めてもらうことが出来なかったのです。「これは誰の子どもですか。」と言われました。無精子の方

が第三者から精子をもらつて、子どもを授かることができるのに、おかしいと思つて闘いました。大阪の裁判で却下。最高裁では弁護士が150名ついてくれました。平成25年12月25日付で最高裁は、私を父親として認めるとの判決を出しました。結婚した夫婦の間できた子どもは子どもとして認めたのです。

わが子は自分たちがどうやって生まれてきたのかも知っています。「お母さんにはお腹で育ててくれてありがとう。お父さんには見守つてくれてありがとう。第三者の人には卵をくれてありがとうと言いたい」と子どもが言ったので、感動しました。その人には会えないかもしれないと伝えると、子どもは「心の中でありが」とつと言つと言いました。

小さい時から知ることは大事です。知ることによつて、生き方を学んだり、人との接し方を学んだりすることができるようです。悩んでいる人がいることを知つてほしい。何に不自由さを感じているのかを知つてほしいです。

私は今、パートナーと子どもたちと出会つて、生きていることがとても幸せで、嬉しいです。自分らしく生きることってなんだろう。ありのままの自分で生きること。昔の自分も、今の自分もひつくるめて生きることが、幸せだと感じるようになりました。(浦山佳代)





2022年2月にハンセン病問題のパネル展を実施し、2022年度は、ハンセン病療養所訪問と研修会を行いました。

## 国立療養所長島愛生園訪問 (7月31日 岡山県瀬戸内市巴久町)

申込みは40人以上でしたが、コロナ蔓延から辞退者が増え、当日は参加者26人(行政関係者9人、社会教育部2人、高校教育部2人、役員3人、市民他9人、講師1人)となりました。事前研修として、行きの行程では黄光男さん(ハンセン病家族訴訟原告団副団長、尼崎市在住)からDVDを見ながら、ご自身の生い立ちを含めハンセン病問題の実態についてお話をお聴きして、学習を深めました。

愛生園では、学芸員の引率で歴史館の展示を見学し、元患者の方の生活や差別の厳しさを肌で感じました。その後、旧収容棧橋、旧収容所、納骨堂を回りながら説明を聞きました。納骨堂には亡くなった後でも家族に迷惑が掛かるからと偽名のまま亡くなられた方もたくさんおられることも聞きました。

帰りは参加者一人一人がマイクを持ち、感想を話しました。「差別は現場に行くと初めて分かる」「無関心なことが差別していることになると改めて思った」「これからも知っていく努力が大事」等の感想がありました。差別問題の学習に取り組む際、次に繋げていく取組みの大切さを学ばせて頂きました。(中田邦子)



## 夏期研修会「ハンセン病問題から学ぶ」(8月2日)



2022年度夏期研修会として、上宮川文化センターでDVD上映と講師のお話を聞きました。50人を超える参加者がありました。

DVD『地域で生きる』(2022年2月制作)は芦屋市在住のハンセン病回復者森さんの生き方を紹介したものです。映画で森さんが、療養所生活のときに医師から「おまえ、そんな顔で出ていけると思っているのか」という言葉をなげかけられた苦い経験から、出所後はどんなことがあっても療養所には戻らない、戻るとは「敗北」と考えていたことも紹介されていました。

一人目の講師はハンセン病市民学会事務局長の訓覇浩さん。ハンセン病患者に対する隔離政策の歴史を法的変遷から説明され、この間、患者の断種・墮胎・故郷との断絶、奪われた本名など、事例を示されました。

二人目の講師は「ハンセン病関西退所者原告団いちよの会」の代表 山中進さん。「ハンセン病回復者として地域で生きるということ」という話をされました。11歳の時に発病し、その時からいつも笑顔をやさなかつた母親の顔から笑顔が消え、その後母親に連れられ、長島愛生園に行き回春寮での生活が始まったこと、特効薬プロミンで快方に向い、8年半の療養所生活を終え大阪の実家に戻ったこと、その後社会復帰するまでの苦労や、結婚を機にハンセン病の偏見・差別があることを思い知ったことなどを話されました。(藤井 聡)



芦屋市在住のハンセン病回復者の森 敏治(もり・としはる)さんが腸管え死のため、2022年12月21日に永眠されました(80歳)。森さんは滋賀県彦根市出身。小学校5年生に発病し、中学3年の時に岡山県の国立療養所「長島愛生園」に入所。26歳で療養所を出て、生活するために仕事を求めます。芦屋には20数年住み、「麦の家」で働かれました。一方、元ハンセン病国家賠償訴訟・関西退所者原告団会長として、差別や偏見解消を求める活動に参加し、国や人々に理解を求める運動に関わられました。当協議会の研究大会分科会や高等学校教育部会でも講演をしていただきました。心よりご冥福をお祈りいたします。

## だれもが差別されない社会の実現にむけて、 「共に生き、共に学び合う」教育をつくりだすために

2023年2月1日(水)～9日(木) 芦屋市役所本庁北館1階展示スペース

この「パネル展」のテーマは～だれもが差別されない社会の実現にむけて「共に生き、共に学び合う」教育を作り出すために～である。市内の教育関係者のほか、芦屋市民や他市の「障がい」のある子の保護者も多数来られていた。(約100名)。

「パネル」に登場した子どもたちには、既に亡くなった子どもたちもいる。「パネル」を通して伝えたかったことは、「共に生き、共に学び合う」は全ての子どもたちの権利であるということ。「障がい」のある子は周りの子どもたちに、決して「助けてもらっている」だけの存在ではない。「障がい」のある子の存在そのものが、「周りの子どもたち」に安心感や笑顔をもたらしている場合が多い。つまり、「お互い様」という関係である。

芦屋市では小・中学校と市教育委員会が共催で、夏休みに1泊2日の「みんなでキャンプ」事業をたつの市新舞子で30数年前から実施している。障がいのある子と同じクラスの友だちと一緒に参加するというこの事業は全国的にも例がない。他市の保護者から「うちの市でも」「うらやましい」などアンケートが寄せられた。

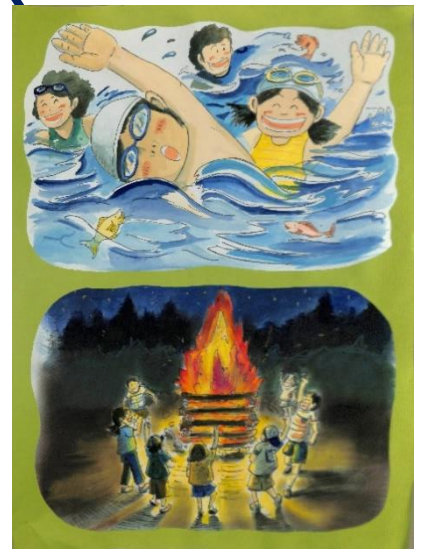


イラスト  
山手小学校 安部太一郎



### アンケート箱に入れられた アンケートの一部をご紹介します

- 私の年代では、「交流」が難しいところが多かったが、展示を拝見し、「差別」をしない「交流」で子ども達は素晴らしいと感じます。もっともっと、社会全体に広がることを祈っている。(市内、70代)
- 永年たいせつに育ててこられた教育。字ばかりのパネルで少々読むのに疲れました。しっかり発信していった住みやすい世の中にしたいものです。(市内、70代以上)
- 「パネル」の文章を読みながら、涙が止まりませんでした。私の子も「障がい」があるのですが、芦屋の学校のような友だちとの関係が出来ればと思います。(西宮、40代)



# 社会教育部会研修会（9月6日・リード芦屋）

## 「ヤングケアラーを考える」

講師：芦屋市子ども家庭総合支援課 久保田あずさ さん

「ヤングケアラーを考える」学習会を開くことになったきっかけは、教育現場に携わる部員から、「子どもと関わりを持つ上で、地域との連携や行政の支援体制について一緒に考えることができないか」という提案を受けたことからでした。

学習会では、兵庫県人権啓発協会作成のDVD『夕焼け』を視聴。その後、芦屋市子ども家庭総合支援課の久保田あずさ課長より、芦屋市の支援体制などについて聞きました。

コロナ対策のため、質疑の時間は設けず、感想・意見を書いてもらい、後日講師から回答をしていただきました。「周囲の人が気づいても、支援までつなげるのはなかなか難しいのではないか」「社会のセーフティネットに対する知識不足、当事者が問題を問題として認識できないなど、社会環境を整えることが大切」「芦屋市にも支援体制があることを知れた。市民に対して早い段階でSOSを出せるような雰囲気をつくっていくことが課題」といった感想が出されました。18人の参加でした。

部会では、1回の学習会で終わるのではなく、引き続き議論を深めていくために、2023年1月12日の研究大会分科会でも、ヤングケアラーをテーマに学習と交流を深めました。（荒西正和）

# 高等学校教育部会研修会（12月1日 市民センター）

## 「部落問題の学び直し—部落差別解消への道程—」

講師：播磨町人権・同和教育研究協議会会長 元県立高校教員 井上浩義さん

冒頭 講師は、部落差別は「所有・支配」の差別ではなく、「排除」の差別であるという。士・農・工・商・エタ・ヒニンと三角ピラミッドで教えられていた時代では、土農工商の人たちがこぞって、被差別身分の人たちを抑圧し、こきつかい搾取してきたかのように思われていた。部落差別というのは、排除していく差別なんだという視点が必要である。人間社会に加えてはいけな存在だったということで、居住地も隔離された離れた場所に置かれた。

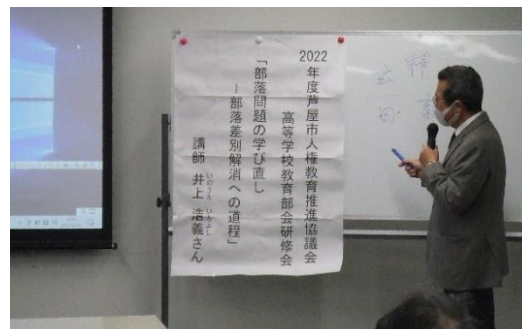
鎌倉時代の百科事典『塵袋』には「エタ」という言葉がのっていることを紹介し、ヒニンやキヨメ、エタ、カタヒと言われる排除されるものが同じというのが鎌倉時代の認識だったと説明。また、鎌倉時代には既に「穢多」という字をあてている。これが江戸時代に制度化され、差別制度が整えられていく。

また、明治4年(1872年)の解放令は、排除の差別を受け続けてきた被差別部落への施策は一切なかったから解放令とは言えない。本当の解放令は日本国憲法である。憲法14条の意味は、部落差別をしたらあかんということからできている。

一方、同和関係法が失効して20年が経ち、部落問題が取り扱われなくなって久しい。しかも人教、同教の「目標」に必ず記載されていた「部落差別をはじめとしてあらゆる差別を許さない取組を」が、近年スポッと抜けていることが多い。

空白の20年を取り戻す取組が必要だと思う。具体的な取組を始めていくことが大きな課題であるとまとめられた。

（藤井 聡）



2022年度を振り返って



大会委員長  
精道小学校校長  
浦山 佳代

今年度も新型コロナウイルス感染症対策を考  
えながらのスタートとなりました。研究大会全  
体会会は人数を制限しての対面開催、分科会は2  
年ぶりにコロナ禍以前のような形式で開催す  
ることができました。

実行委員会では、研究大会での「あいさつ文」  
「研究大会の研究討議を深めるために」の文章  
内容などについて念入りに検討いたしました。実  
行委員の皆様とともにさまざまな意見を交流す  
ることで、新しい気づきがあり、大変有意義なも  
のとなりました。

学び続けていきたい



実行委員長  
打出浜小学校教員  
山下 知子

今年度は、新型コロナウイルス感染症の対策を  
行いながら、芦屋市人権教育推進協議会の全体  
会、分科会を久しぶりに開催することができま  
した。しかしながら、課題も多く来年度に向け  
検討する必要があると思っています。

実行委員会では、人権課題について意見を出  
し合いました。色々な立場の方の意見を聞くこ  
とで、視野が広がり勉強になりました。身近にあ  
る人権課題に目を向け、多くの方の意見を聞き  
ながら学び続けていきたいと思えます。

## 全体会

講師 堀家由妃代さん

全体会は佛教大学教育学部准教授の堀家由妃代さんを講師に  
迎え、「誰もが差別されずに共に学び合い、共に育ちあう教育をめ  
ざして」をテーマにお話いただきました。「自身のお子様のことや、  
大学のゼミの学生たちとの関わりの中で見えてきたことや感じたこ  
と等を通して、インクルーシブ教育について聞かせていただきました。  
「仲間の存在が一番の合理的配慮」ということや、「先生たち、  
やりすぎいませんか？子ども同士の関わりを大切に、つなげて  
いくことを大切にしてください。」ということをとてテンポよく、  
力強く話してくださいました。  
全体会のアンケートでは「子ども同士の関係を切らないように気  
を付けたい。」や「良かれと思ってしていたことが、本当にその子のた  
めになっていたのか考えさせられた。」等のご意見をいただき、みな  
さん良い学びが得られました。

(山下知子)

## 講師紹介 堀家由妃代さん

佛教大学教育学部准教授

- 研究分野  
「知的障害者の後期中等教育に関する研究」  
「国内外の特別ニーズ教育に関する研究」  
「発達障害児のコミュニケーションに関する研究」
- 経歴 大阪教育大学教育学部卒業  
東京大学大学院教育学研究科修士課程修了



## 実行委員紹介

大会委員長	浦山佳代	人権協副会長
副委員長	荒西正和	人権協社会教育部長
実行委員長	山下知子	打出浜小学校
副委員長	間瀬吉浩	潮見中学校
	横山 瞳	宮川幼稚園
実行委員	西尾幸代	小槌幼稚園
	山本有希子	精道こども園
	白川紀子	岩園保育所
	唐津康恵	精道小学校
	郷田 恵	宮川小学校
	尾村 治	山手小学校
	南谷喜彦	岩園小学校
	荒井洋一郎	朝日ヶ丘小学校
	山下大樹	潮見小学校
	西馬由華	浜風小学校
	早木 彩	精道中学校
	釣谷友希	山手中学校
	上岡 是	クラーク高等学院
	森谷尚史	社会教育部会

月 日	実行委員会 概要
2022年 8/31(水)	・第49回芦屋市人権教育研究大会 実行委員の仕事とその分担について
2022年 9/21(水)	・役員あいさつ文の検討 ・「研究討議を深めるために」の検討 ・分科会チラシや概要の作成について
2022年 10/13 (木)	・役員あいさつ文の再検討 ・「研究討議を深めるために」の再検討 ・分科会チラシや概要の作成について ・ふれあい分科会内容・講師の確認
2022年 11/2(水)	・全体会・分科会における役割分担
2023年 1/18(水)	・本年度の研究大会の振り返り ・来年度の研究大会について



六つの分科会に分かれ、それぞれの人権課題についての実践や取り組み等について報告していただきました。人権課題について考える時間を共有できる貴重な時間となりました。

**就学前教育分科会**  
人と人との関わりを通して育ち合う  
安心できる環境の中で育つ力

市立緑保育所 加藤真菜 近藤ひとみ

自然に恵まれた緑保育所では「安心できる環境の中で育つ力」とは何かと、昨年度から幼児、乳児クラスに分かれて、「ミニ研究会」を重ね話し合いを進めてきた。また、自分が大切にしていると感じることや周りの人のことも大切にできると考え、「自分も友達も大切に」という保育目標を設定した。子どもの姿を振り返る中で、友達と一緒に何かをする事が楽しいと思える環境づくりが大切だと感じ、職員同士が話し合い、共通意識を持つて取り組んだ。分科会では、色々な視点から今後に繋がる貴重な「意見」感想を頂き話し合いを進められた。子どもの主体性を育てるだけでなく自分自身も人権問題に主体性を持ち、今後も学んでいきたいと思う。(妹尾幹子)

**小学校教育分科会**  
保護者と共に人権を考える  
「ふれあい人権参観」の取組から

市立山手小学校 西浦江美



山手小学校の人権教育について説明の後、保護者と共に人権を考えるふれあい人権参観について各学年から報告があった。1年生「なんにでもなれるよ」2年生「すてきな人になるために」3年生「みんなながって、みんなのちがいが、みんなが目指す」ジェンダー平等とは?」6年生「のびのびってなんだろう」という単元で、性別や職業、人との違いや関わり方等からジェンダーについて考えた。山手小学校の発表を聞き、他校の実践も聞くこともできた。それぞれの学校でこれからの人権の学習に活かしていく。(栖田千聡)

**中学校教育分科会**  
より良い「生き方」を目指して  
総合的な学習の時間 特別活動を中心に  
市立潮見中学校 八木美子 安井一樹

脇谷弘美 渡辺一功

中学校部会では、総合的な学習の時間や特別活動の時間に、より良い「生き方」を目指した教育を行った。今年高校1年生になった学年の3年間の歩みを報告した。発表内容はキャリア教育ではゲストティーチャーの講演や先輩の話を聞く会を行った。福祉教育では白杖・アイマスクを経験し、サポートの仕方、接し方を学んだ。国際理解教育では、リモートで外国にルーツを持つ生徒の報告・海外青年協力隊経験者に話を聞くことができた。平和学習では、杉原千畝を通してナチス・ホロコーストについて学んだ。報告後はグループに分かれ発表内容を討議し、最後にグループごとに発表し、意見を交流することができた。(間瀬吉浩)

**社会教育分科会**  
「ヤングケアラー」に対する芦屋市の支援体制と地域社会の課題  
社会福祉協議会 針山大輔



これは社会的排除や社会的孤立の問題で、子どもを含む家族全体の問題だと指摘された。教育格差が雇用格差を生み、所得格差につながる現状の背景には、子どもの相対的貧困率の上昇や認知症の増加がある。社協相談窓口には「ヤングケアラー」の相談はまだないし、市内には主となる支援組織がなく、子ども自身の認知度も低いと思われる。相談体制の確立と情報提供、関係者の幅広い連携と協議が必要で、制度やサービスだけではなく、命と尊厳と未来をつないでいくことが肝心であると締め括られた。

参加者からの、社協にヤングケアラーかと思われる事例を相談した後の進展への質問に対しては取組上との回答があった。また、子どもの SOS が出た時の相談先や、学校で教師の気が付かない場合などや、法的な整備の情報はないかとの質問もあった。報告者からはまず当事者の声を聞き、孤立防止のつながりを作ることが大きな支援だと回答された。限られた時間内の報告と質疑であったが、45名の参加者を得て子どもたちへの熱い思いが感じられる分科会であった。(宮田靖久)

**高等学校教育分科会**  
「兵庫県立芦屋高校の人権教育」  
正しい人権意識をめざして  
県立芦屋高等学校 岡本哲弥



芦屋は開校80年を超える普通科単位制高校で、自由・自治を校訓とする校風である。また、特別枠入試で外国籍の生徒が毎年3名の定員で入学している。人権HRでは、1年次で「主権者教育アサシオントレーニング」、2年次で「自分ってどんな人」、3年次で「アンコンシヤスパイアス」無意識の思い込み」等の問題を取り扱っていること、また学校行事を通しての人権教育の取り組みとして、沖縄修学旅行での事前人権学習や、外国籍生徒と共に国際理解を深める講演会などの実践例が報告された。質疑応答では、沖縄修学旅行の実施の経緯や中学校の修学旅行との関係について、人権HRの実施回数や内容に関する質問も出された。また、人権HRで取り上げる課題として、在日韓国朝鮮人の就職問題等、人種差別問題を扱う必要性や、部落問題も知らない子が大学生でも多い実態などが指摘され、芦屋の英語の授業でも、人種差別を取り上げた教材を取り扱った際に、外国籍の子が授業を嫌そうに受けていたことなどが報告された。

芦屋市内の小・中学校では人権学習に年毎のテーマを決めて取り組んでいるが、高校での人権教育はまとまった形の取り組みが十分ではないのが現状で、今後はあまり取り上げられていない問題にも幅広く取り組んでいく必要があることを課題として感じさせられた。(山本喜徳)

**ふれあい分科会**  
「地域共生社会を推進するために必要なこと」  
保育所等訪問支援から見据えるインクルーシブ教育  
パルクあしや 亀澤康明

芦屋市で子ども療育支援事業をされている亀澤康明さんに、共生社会を目指す上での心構えなどを、5年間の訪問支援の体験を交えながらお話していただきました。

質疑応答の時間では、愛着形成が苦手な子どもに寄り添う方法について質問がありました。成功体験や第三者との繋がりを実感させる工夫が必要であるとアドバイスいただきました。それを受けて他の参加者からは、子どもたちが自分から求めている楽しいと思える活動を通して支援をしていきたい。「あのお友だちと一緒に楽しかったね」ということを言葉でも、そのお子さんに伝えていきたいと感想があり、充実した討議時間となりました。(唐津康恵)

# 専門部の活動報告1

専門部に分かれた活動もしています。それぞれの活動を報告します。

## 就学前教育部会



今年度もコロナ禍と向き合いながら、12月16日に打出教育文化センターで元伊丹市立幼・小・中学校長の和久一美先生を講師にお迎えし、「生きる力の土台を育てる人権教育」の研修会を行いました。こども園・保育所・幼稚園合わせて20数名が参加しました。

冒頭、和久先生は幼稚園長の経験から、「皆さんは、日々の保育の中で人権教育をされていますよ。でも時には振り返ることも必要です」と言われました。優しい笑顔で、今の私たちの日々の保育をしっかりと肯定していただき、大きな安心感と自信に繋がりました。職員自身が認められ、受け容れられているからこそ、振り返ることがより人権につながると感じました。和久先生は子どもが語り掛けてくれたら必ず答えていたと言われ、その子への返事がとても嬉しいことを伝えてくださいました。おとも、言葉を発しない赤ちゃんも同じです。大事と思えば気にすること、全ての生命に対する敬愛の気持ちを持ち、明日からの保育に向き合う力をいただきました。この研修会以外には活動は持てませんでした。

(長澤淳子)

学校教育部会は、今年度は研修会1回の開催となりました。

「芦屋の部落史」の学習会を、10月26日(水)に上宮川文化センターで開催し、研修用DVD『芦屋の部落史と教育闘争』の視聴と、その解説を芦人権社会教育部長の荒西正和さんにしていただきました。

DVDを観る前に、今年度は「水平社」創立100年に当たることから、日本では被差別当事者の初めての宣言である「水平社宣言」のことや、解放同盟芦屋支部の結成のこと、最初に取り組んだ「教育闘争」のことなどについてお話いただきました。

芦屋市でも厳しい差別の現実があったことや、地域の方たちが差別解消に向けて取り組んだ結果として、芦屋市の教育にも大きな変化をもたらしたことがわかりました。

初めて聞く話がほとんどで、芦屋市の多くの人にも知ってもらいたい内容でした。

(秋本孝幸)



## 学校教育部会(小・中)



2022年度高校教育部会は全4回の活動となりました。第1回は年間活動の話合いでした。

第2回は芦屋市民センターにて、元兵庫県立高校教員の井上浩義さんより「部落問題の学び直しー部落差別解消への道程」の研修会を実施しました。

第3回は県立芦屋国際中等教育学校体育館での生徒人権学習講演会に参加しました。内容はハンセン病家族訴訟原告団 副団長の黄光男さんによる「ハンセン病家族訴訟への思い」問われているのはだれですか、「元ハンセン病患者家族の奥問政則さん」に「ふたつの国策による差別」国策によって引き裂かれた親子の絆と沖繩の現状」でした。

第4回は上宮川文化センターにて、高校教育部会に参加する全7校より、2022年度の各校での人権教育の取り組みについて、発表・報告・意見交換をしました。振り返ると、活動内容の豊富さが顕著でした。今後も芦屋市人権協高校教育部会はベストワンではなく、オンリーワンの人権教育活動をめざします。

(上岡 是)

## 高等学校教育部会



## 社会教育部会

社会教育部会は、前年度末の2022年3月29日に「福祉体験学習会」、本年度では8月22日に会議を持ち、9月6日に「ヤングケアラーを考える学習会」、10月22日に会議を持ちました。福祉体験は、広く市民が参加できる研修を実施しようと議論し、参加型の学習会を企画しました。アイマスク体験では、点字ブロックの説明、

ペットボトルに入った水の容量を聞き分ける体験、高齢者疑似体験では、腰や膝を伸ばすことができない用具を装着し、「どれだけ行動に制限がかかるのか」を体験しました。



ヤングケアラーは、最近注目を集めている問題ですが、気づきや支援について学校や地域とともに課題を考えようと議論して実施しました。当日は兵庫県人権啓発協会が作成したDVD『夕焼け』を視聴、その後芦屋市の担当課長から芦屋市の支援体制などの説明を受けました。この課題は1回の学習会で終わらせるのではなく、社会教育部会として引き続き議論を深めていくことを確認しました。

(荒西正和)

## 総務委員会

総務委員会は役員会として芦屋人権協の日常的な事業等を協議しています。今年度はコロナ感染に対策を取りつつ、理事会を開き定期総会を行うことができました。そして研究大会全体会、同分科会を実行委員会で企画検討し、開催しました。

また、人権啓発の学習としてハンセン病差別問題を取り上げた前年度二月のパネル展の延長として、7月に岡山の療養所を訪問し、8月の夏期研修会では、DVD上映と元患者の方を講師にお招きし、学習会を持ちました。芦屋人権協はこれからもさまざまな差別問題について市民と共に学習し、啓発活動を継続していきます

(中田邦子)

## 個人部会

個人部会は現在七名の会員で、人権協の研修会や専門部の活動の案内をもらって、個々に興味のある活動に参加しています。いろいろな人権を学べます。どなたでもご参加いただけます。ぜひ一緒に！

(守上三奈子)

## 芦屋市からの発表

第 69 回阪神地区人権教育研究大会は、7 月 30 日を予定していましたが、3 年連続での中止(書面報告のみ)となりました。芦屋からは 3 学校園に発表していただきました。

第 69 回県人権教育研究大会は、10 月 25 日に初めてのオンライン開催となりました。阪神同教の推薦を受け、岩園小学校が発表しました。

第 73 回全国人権・同和教育研究大会は、11 月 26・27 日奈良県・橿原文化会館他で 10,000 人を超える参加者でした。社会教育部会テーマ「地域から考える人権の町づくり」の第 4 分科会に参加しました。(小畑 広士)

### 阪神同教就学前部会発表概要 (レポートで報告：芦屋市立西山幼稚園)

園では、異年齢グループでの遊びの場を通し、核となる幼児を中心に、全ての幼児が関わり合い、共に成長することをめざしている。

通り抜け鬼ごっこの場面。いったん先にゴールした年長児 A は、なかなか進めない年少児 B に気付きスタート地点に戻ると、B を見守りながらゴール。年少児から頼りにされることで、A には自覚が芽生え、相手のことを考えるようになった。また、年少児 C も自分の意見を丁寧に聞いてくれた年長児 D がいたことで、自信をもち、自分の思いが出せるようになってきた。

こうした幼児の成長に関する遊びの過程や援助の実際を小学校に伝えていくことが接続につながると講師より指導を受け、教師間の交流、参観、討議を行った。(河合愛加・丸野明日香)

### 阪神同教小学校部会発表概要 (レポートで報告：芦屋市立岩園小学校)

レポートでは、岩園小学校の人権教育の取り組みについて報告しました。内容としては、本校が近年重点課題として取り組んだ「LGBT 教育」「インクルーシブ教育」についての、教材開発、カリキュラムづくり、教職員研修をまとめました。

様々な人権課題について、私たち教職員は日頃からアンテナを高くして、人権感覚を磨き続けなければいけません。そのために、諸課題に対する社会情勢・実態を知ることや当事者から話を聞くこと、子どもたちの実態を捉えた適切な指導が必要となります。今後も、充実した人権・道徳教育となるよう検討を重ねていきたいと思えます。(藤田雄也)

### 阪神同教中学校部会発表概要 (レポートで報告：芦屋市立山手中学校)

全国不登校生徒の割合が 4.0%に対して、本校においては 6.6%を超えている。その理由はさまざまで、解決法がなかなか見つからないのが現状である。生徒指導担当、担任や学年を中心としたいねいな取組を行ってきた。その成果の一つとして、別室登校の生徒が、「オンラインで授業を受けたい。」と伝えてきた事案があった。これは教室の雰囲気を変えるのによい機会だと考え、早速とりくんだ。他の事案でも友達とのつながりが不登校生に変化をもたらすことは多い。

不登校における課題は複雑である。それでも家庭と向き合い、関係機関との信頼関係を築く中で、学校としてできる地道な努力を今後も大切にしたい。(浦瀬志津・前田恵汰・松原 功)

## 2023 年度開催の主な大会予定

阪神地区大会 7 月 29 日(土)

兵人教中央大会

全国人教大会 11 月 25 日(土)・26 日(日)

猪名川町文化体育館

全国人権大会と兼ねて開催

兵庫県・大阪府・京都府合同開催

## 全国中学生人権作文コンテスト兵庫県大会 激励賞受賞おめでとう！



白水 果燐さん

第 41 回「全国中学生人権作文コンテスト兵庫県大会」の入賞作品 40 点が発表されました。応募は 84,767 点。山手中学校 1 年生の白水果燐さんが奨励賞を受賞しました。この人権作文コンテスト(法務省等主催)は毎年 7 月に応募、12 月の「人権週間」に審査発表されます。中学生が体験に基づいた作文を書くことを通して、人権尊重の大切さや豊かな人権感覚を身に付けることを目的としています。

芦屋市教育委員会は市立小中学校の児童生徒から募集した人権作文をまとめ、人権啓発冊子『ふれあい』を 1988(昭和 63)年度から毎年 3 月に発行しています。

2022 年度第 34 号に掲載された 11 校 66 人の名前と作文タイトルを紹介します。



# 子どもの人権作文紹介 2022年度「ふれあい」に掲載された市内11校66人です

## 精道小学校

	名前	タイトル
1年	木下朔太郎	『かわいそうなぞう』をきいて
2年	新田佳司	『戦争をやめた人たち』
3年	黒木ひな	『六にんの男たち』を学習して
4年	芳村寛介	『象のいない動物園』を読んで
5年	歳安 慶	十歳で気付いた平和への最短ルート
6年	森田夢栴	『よだかの星』

## 山手小学校

1年	国井璃子	えがおってなんだろう
2年	中川琉依	言い方をかえよう
3年	山田有紗	『111本の木』から広がった幸せ
4年	岡本光ノ介	平和学習を終えて
5年	渡邊友理	『ガラスのうさぎ』を読んで
6年	武用直人	『ペロ出しチョンマ』を読んで

## 朝日ヶ丘小学校

1年	樋口心春	せかいと であう べんきょうをして
2年	和田結月	『おこりじぞう』をよんで
3年	松尾朝日	ずっとえ顔だったのに
4年	能勢 航	ワンチーム
5年	小谷美織	『時のむこうに ～いま、ここにいる～』
6年	夏目結生	『へいわってすてきだね』を読んで

## 打出浜小学校

1年	関 夏実	ともだちっていいね
2年	南口はな	『森のともだち』をべんきょうして
3年	林 朱莉	『じろはったん』を読んで
4年	藤木千鶴	遊べる・学べる・選べるという幸せ
5年	鴨井美月	自分を助けてくれる人
6年	豊嶋武蔵スパイク	僕も「ホワイトでイエローでちょっとブルー」なのかな

## 潮見小学校

1年	堀井柊太郎	ぼくがすきな人とどけたいきもち
2年	木下 颯	ぼくは、ぼく
3年	高木陽太	相手の気持ちを分かり合おう
4年	孝岡春佳	戦争のつらさを知って
5年	藤原咲弥	「リンゴの木を植える」という言葉にこめられた思いとは
6年	泉 慧	しゃべり方

## 宮川小学校

1年	古川悠誠	ともだちばわあ
2年	渡辺旺太郎	『ロボット・カミイ』
3年	山村咲良	『明日香さんは負けない』を読んで

## 宮川小学校

	名前	タイトル
4年	青山桜子	『わきだせ！いのちの水』
5年	真田彩帆	「命」に関して、私が思うこと
6年	柳原瑚々	『わたしの気になるあの子』を読んで

## 岩園小学校

1年	中村百音	ともだちとなかよし
2年	勝又諒子	『すうがくで せかいをみるの』を読んで
3年	久岡柚鈴乃	今の平和のありがたさ
4年	杉浦由奈	みんなちがっていてもいい
5年	塩山愛来	平和の大切さ
6年	宮内奨太	いじめとは何か？

## 浜風小学校

1年	高須賀千穂	ぼくたち、わたしたちのことを べんきょうしてくれて、ありがとう
2年	川端心結	みんなできらすちきゅう
3年	宮迫倅生	『おりづるの旅』を読んで
4年	藤原海羽	『そして、トンキーもしんだ』
5年	萬野未来	ゆめのようなホラ話
6年	佐藤柚奈	友だちとの関係で大切なことは・・・

## 精道中学校

1年	仁敷咲良	お年よりに手助けを
	藤本桃嘉	フツウ
2年	手塚洋人	目に見えない障害
	溝口遼多朗	大人の優しさ
3年	平井祥一朗	心をつなぐさりげない言葉
	野村莓花	差別のない社会を目指して

## 山手中学校

1年	白水果憐	この世界を優しさで包み込めるように
	渡川あい子	違いを認め合う
2年	中西真菜	笑顔があたえるもの
	古川紗裕	イランの子と話して
3年	川勝吏琥	「見える人」ができること
	中川紗有実	歴史から学ぶ「平和」

## 潮見中学校

1年	福本 悠華	「戦争」
	土谷悠夢	「誰もが暮らしやすいということ」
2年	竹島柚希	「聞こえているの？聞こえてないの？」
	塩津さくら	偏見をなくすために
3年	田上奈々	見つめ合える世界を
	大西和佳	両方知ったことで

## 記念講演会

演 題：部落差別解消推進法を学ぶ

講 師：近畿大学名誉教授 奥田 均 さん

日 時：2023 年 5 月 17 日（水）15:50～17:00

会 場：芦屋市民センター301 室

○どなたでもご参加いただけます 無料



**概要** 部落差別解消推進法が 2016 年 12 月施行された。この法律をテキストに、部落問題をはじめさまざまな差別問題を理解するうえでの基礎基本となる視点を 2 点に絞って考えてみたい。一つ目は差別の現実認識における実感主義の克服。もう一つが差別を社会問題としてとらえることの意味。実践のスタートラインの再確認です。

## 芦屋人権協は

芦屋市人権教育推進協議会の略称です。身近な人権課題に取り組み、学習する機会を通して、人権意識を高め、すべての人の人権が尊重される社会づくりをめざし、活動を推進しています。

総会後の記念講演会、夏期研修会、研究大会全体会・分科会を開催しています。専門部活動の研修会では、部会ごとの活動が芦屋人権協の基盤となり、誰もが参加できる企画や運営体制づくりを進めています

## 会員募集中!!

各専門部会や各種講演会の案内、しんぶん「芦屋人権協」も送らせていただきます。どなたでもご入会いただけます

この会にご賛同いただき、活動にご協力・ご支援をさせていただきますようご入会をお待ちしています

### 会費（年額）

個人会員	1,000円
団体会員	2,000円

## 連絡先

### 芦屋市人権教育推進協議会

〒659-8501

芦屋市精道町 7 - 6

芦屋市教育委員会 生涯学習課

電話 0797-38-2091

Fax 0797-38-2072

## 2022 年度 役員紹介

会 長	小畑広士		
副会長	浦山佳代	辻本久夫	守本明範
書 記	中田邦子		
会 計	谷村洋人	守上三奈子	
会計監査	青山睦子	唐津康恵	

## 参加登録団体

芦屋市民生児童委員協議会 芦屋市青少年育成愛護協会  
 自治労芦屋市水道労働組合 芦屋市身体障害児者父母の会  
 社会福祉法人芦屋市社会福祉協議会 芦屋市教職員組合  
 部落解放同盟芦屋支部 障害者が街で共に生きるみんなの麦の家  
 兵庫県退職教職員協議会芦屋支部  
 兵庫県立芦屋高等学校 兵庫県立国際高等学校  
 兵庫県立芦屋国際中等教育学校  
 兵庫県立芦屋特別支援学校 芦屋学園高等学校・中学校  
 甲南高等学校・中学校 クラーク記念国際高等学校  
 芦屋市立幼稚園(宮川 岩園 小槌 西山 潮見)  
 芦屋市立こども園(精道 西藏)  
 芦屋市立保育所(岩園 打出 大東 緑)  
 芦屋市立小学校(精道 宮川 山手 岩園 朝日ヶ丘 潮見 打出浜 浜風) 芦屋市立中学校(精道 山手 潮見)



## ホームページ

<http://ashiyajinkenkyo.jimdofree.com>

## 編 集 後 記

今号は再開できた研究大会報告のほか、療養所訪問報告、子どもの人権作文紹介など新規掲載を行ったので編集が大変だった。執筆者、デザインのみなさまのご協力に感謝。(辻本久夫)